

教育機関向け試験費用

試験名称	試験概要	装置スペック	機器使用料	オペレータ料※3 (試験監督料※4)	備考
衛星電波予備試験	・搭載アンテナからの放射パターン形状測定 ・電磁適合性(EMC)試験のうち、エミッション試験	3m法電波暗室 電波吸収体内寸6.0mx5.2mx5.0m	10,000円/日	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 オペレータは九工大のみ
振動試験	ロケット打ち上げの際の振動に耐えられることを検証する	センサーは24chまで 25ch以上は要相談	15,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
衝撃試験	ロケットから切り離す際の際の分離衝撃に耐えられることを検証する	10cm級、50cm級の衝撃試験	20,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱真空試験(大)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10 ⁻⁵ Pa、液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱真空試験(小)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 到達圧力1.0x10 ⁻⁵ Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱平衡試験(大)	衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10 ⁻⁵ Pa、液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱平衡試験(小)	衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 圧力1.0x10 ⁻⁵ Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	30,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1 クリーンブース使用の場合※2
熱サイクル試験(大)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	−190℃から200℃まで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	10,000円/日 (5,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱サイクル試験(小)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	−190℃から200℃まで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	10,000円/日 (5,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
真空中機能試験	衛星に使用する部品、素子等の真空環境下で動作することを検証する	到達圧力5.0x10 ⁻⁵ Pa	5,000円/日	10,000円/日 (5,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
加圧コンポーネント 圧力試験・リーク試験	圧力容器等が要求通りの耐圧とリークレートをもつことを検証する	試験可能サイズ:15cmx15cmx15cm 真空容器背圧:1Pa	10,000円/日	23,000円/日 (10,000円/日※4)	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
アウトガス試験	ASTM E-595に準拠したアウトガス測定を実施する	ASTM E-595に準拠	100,000円/回	300,000円/回	消耗品費用は機器使用料に含む 1回につき6検体まで測定可 オペレータは九工大のみ 測定1回につき1週間
熱光学特性試験	太陽光吸収率および垂直放射率の測定	測定波長範囲 太陽光吸収率:0.25~2.5 μm 垂直放射率:2.5~100 μm	12,000円/データ 1検体につきαを2回、 εを2回測定の場合、 12,000×4=48,000円		消耗品費用及びオペレータ費用は機器使用料に含む イレギュラーなサンプルについては割増→相談要 オペレータは九工大のみ
衛星組立室 (クリーンルーム)	衛星組立室の利用料		4,000円/日		
共同利用研究	各衛星試験設備の共同利用	超小型衛星試験センターの共同利用申請を行い、採択を得た研究に限り、センター保有試験装置を無料で使用出来ることとする。	基本的に無料※5	—	特殊な機材、消耗品等を使用する場合、相談の上、実費請求あり

利用料金は予告なく改訂することがあります。

※1: 消耗品費用とは液体窒素、専用治具の作成、センサー類の追加分等を指します。

※2: クリーンブース使用の場合、クリーンブース使用料で10,000円/回を料金として計上する。(この中にはクリーンブース用作業服のクリーニング費用、各消耗品等を含む)

※3: オペレータ料は、九工大職員に機器の操作を依頼する場合に徴収します。尚、1名当たり1日8時間を基本としています。

※4: 九工大職員がオペレータ技術を教育して技術取得を認めた場合に限り、機器使用料+試験監督料のみで試験を行うことができることとする。(技術取得の費用はオペレータ費用と同等とする。)

※5: 特殊な機材、消耗品等を使用する場合は、予め共同利用申請を行う際に相談を行う事。